

課 題		主 な 意 見	関 係 す る 機 関	回 答 等
議事－(1) 前回合同会議の 検討経過の概要	(1) 概要報告 (2) 前回の意見等 に対する回答	※特に意見等はなかった。	林野庁	
議事－(2) ヤクシカの現状に ついて		※特に意見等はなかった。	WG事務局	
	(1) 生息状況・捕 獲状況・各種モニ タリング状況につ いて	①個体数推定(環境省15地点、林野庁5地点、鹿児島県15地点の糞粒方による)について、河川 界区分ごとの合計が全体の合計になっているのか。 ②データが揃ってきたので、そろそろベイズ推定法を用いた分析を行っても良いかと思われる。 河川界区分をそれぞれ独立した個体群とみなして推定するのと同時に、全体を一つの個体群と しても推定するやり方を提案する。	鹿児島県	①合計欄の値は島全体を推計した結果となっている。 ②今後、業者と検討していきたい。
		許可捕獲について、報奨金等の予算が捕獲数に影響しているのか。	屋久島町	特に影響していない。
	(2) 平成28年度ヤ クシカ捕獲状況 (許可捕獲)	※特に意見等はなかった。	屋久島町	
	(3) 国有林の林道 別のヤクシカの捕 獲数と捕獲効率 (CPUE)の推移	①CPUEの低下の要因について、生息数減少によるものなのか、スレジカ増加によるものなの か、具体的な検討を考えているか。 ②スレジカによる影響については、捕獲効率と密度指標(センサーカメラによる撮影頻度等)の 比較によりある程度判断できるかと思われる。糞塊・糞粒のデータをつき合わせた形の中である 程度見えてくる。	林野庁	①②平成29年度の結果も踏まえて今後検討して参りたい。
議事－(3) 平成28 年度及び 29年度の取組に ついて	(1) 屋久島町にお ける鳥獣被害防 止対策	①シカの適正処理について、シカの歩留りが良くないことや、今後頭数を減らしていく方向にある ことをしっかりと説明すべき。長崎県がやっている適切な処理方法のプログラムが参考になるか もしれない。 ②狩猟免許の新規取得者に対し、返納者はどれくらいいるのか。	屋久島町	①捕獲数減少は事業者も予測し、地元のボンカン等の果汁を混ぜた新製品の開発を検討。今後も事 業者と意見交換しながらやっていく。 ②返納者は、ほとんどいないが、免許更新をせず、捕獲を行わなくなる方はいる。今後、屋久島町猟 友会員の年齢構成人員について改めて精査を行い、ご報告していきたい。
	(2) 西部での捕獲 手法の検討	①西部地域での捕獲手法の検討において、囲いわな3m×3mの大きさを再検討していただきたい。 ②コストとメンテナンスのことを考えると小規模柵をたくさん設置するという方がシカの動きに対す る影 響も少なくてよいのではないか。 ③西部地域での捕獲手法の検討について、餌と併せ、鉈塩による誘引も提案する。 ④西部地域における誘引状況について、スレジカが出てくると時間帯が変わってくるため、時間 帯ごとの記録をだしていただきたい。	環境省	①今後捕獲する際には、距離を置いて複数設置する、もう少し大きいものを設置する等も検討したい。 ②捕獲という手法だけにとどまらず、柵設置等も含み総合的に考えていく必要があると認識。 ③鉈塩については、実際に捕獲する時には検討してみたい。 ④その通りに対応したい。
	(3)計画捕獲に向 けた捕獲手法の 検討	捕獲手法の検討だけでなく、モニタリング手法も同時に考えていただきたい。何頭取ったかでは なく、何頭減らしたかが重要であるため。	環境省	捕獲手法だけでなくモニタリング手法も含めた実施計画の作成を検討して行きたい。
	(4)鹿児島県のヤ クシカ対策につ いて	①捕獲のシミュレーションについて、自然増加率をどのくらいに設定したものになっているのか。 ②捕獲のシミュレーションについて、雌が多く捕られるシナリオ設定になっているが、くくりわなで は性への選択が動きにくいので、そこを加味する必要があると思われる。	鹿児島県	①自然増加率は1. 2としている。 ②雌を優先的に捕るということではなく、毎年の雌雄の捕獲実績の比率をベースに作成している。
	(5)ヤクシカ対策 について	生態系管理の目標を早く定めるべきである。暫定案でも構わないので、おおよその目標を関係 者間で共有したい。	林野庁	出来るだけ早い時期に、暫定案だけでも、ご報告できるようにしていきたい。
		止め刺しを社会的にどうしていくか、止め刺しの方法をそろそろ考えていくべき。	環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	ご助言をふまえて、4行政機関で今後、検討して参りたい。
議事－(4) ヤクシカ対策にお ける検討につい て	(1) シャープ シューティングの 体制によるヤクシ カ試験捕獲の実 績について	※特に意見等はなかった。	WG事務局	
議事－(5) その他	(1)屋久島西部地 域の自然環境保 護に関する申し 入れについて	① エビデンスに基づいて意見を言われていないことに対して、科学委員会として返信するとい うのは難しい。研究者の間での全国的なシカ対策の中でヤクシカを獲るべきでないという意見が出 ているのも含めて、多く議論をするというのが必要。 ②異なった意見もちろんあり、早く管理目標をしっかりと確立しない限りでてくる。西部地域の低 標高、林道より下の部分というのは鹿児島県の県有林にもなっており、その辺は環境省だけでな くて鹿児島県としてもどのような森を目指していくのか、具体的な提案をしていく必要がある。 ③ 下層植生を回復させてそれに付随する生物群集を復元させて、その間にシカの個体群管理 を行って回復した植生をシカに開放してやって、シカと植物の共存点を探っていくのが西部のや り方ではないか。 ④この地域では管理を始めると正面切って提案した方が、筋が通る。それが共通認識だというこ とで丁寧に説明していかなければならないが、西部地域は世界遺産の登録地域の森であるか ら、それにふさわしい健全な森の姿にしていけるべき。	環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	科学委員会、ヤクシカWG合同会議で、ご助言をいただきながら、4行政機関で進めて参りたい。